

電気通信工事業における激突災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	17～18	カメラ改修工事において、手すり付仕切り板を乗り越えて作業を行った。作業終了後、再びその仕切り板を乗り越えようとした時、床に自分が置いた腰道具入れがあった為、それを避けようと不安定な体勢で降りた事により右足首を捻った。	37	—
1	11～12	会社の車庫にて、トラクターの荷台から右側へ降りた際に右足首を骨折した。	35	10～29
3	16～17	会社倉庫で材料の用意をしようとした際に棚に額をぶつけた。	45	10～29
5	13～14	本社敷地内に設置してあるコンテナ出入り口にて現場工具等の整理及び準備中に扉が閉まりかけたため、慌てて右手で扉を押えつけたところ右手小指をぶつけた。	30	10～29
7	13～14	工場内で塗装作業中に養生鉄板で保護していたのを忘れ、後にしゃがもうとした時に尿道付近を強くぶつけてしまった。	22	10～29
9	8～9	当日被災者は、工場内で配線盛替作業中、バランスを崩し脚立中段から飛び降り、左足から着地し、足首を捻り転倒負傷した。	69	1～9
10	10～11	弊社2番倉庫内において材料の荷受を行っている際に、材料を置くためにダンボールを敷く事になり、不要ダンボールを持ち出すため、搬入済の荷物（ダンボール入り）の奥へ手をのばして取ろうとして、左側の肋骨がダンボールに押し当たった	43	100～299

		め、負傷した。		
11	14～ 15	3tダンプ上での作業完了後、ダンプの荷台から降りようとした際、着地が不安定になり左足首を負傷した。	48	10 ～ 29
11	15～ 16	資材の搬出作業で現場階段を2Fから1Fへ降りる際に、最後の1段を誤って、バランスを崩し、よろけてそこに組み立てていた足場鋼管に左脇をぶつけた。	57	30 ～ 49
12	17～18	被災労働者は、倉庫で棚に置いた道具や工具類の整理整頓と掃除の最中、棚上段（高さ2m弱）から道具（重量物）を下ろす際に脚立（高さ1m程）を使い、右足を脚立のステップに乗せ左足を棚に掛けた体勢で行った。道具を引き抜いた拍子に脚立が地面にあった大き目の砂利小石にぐらつき、仰け反りそうになり飛び降りた。飛び降りた足元にドラムジャッキ（鉄製）があり、左足ふくらはぎが先端に接触し、痛みを覚え通院した。	25	30 ～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html